

岡山高蔭 たかかげ 書家、歌人。慶應二年五月尾張國熱田生れ、昭和二十八年八月二十九日歿（二六六一一九四五）。本名繁太郎。別號得應主人、誥雲齋主人。幼少より書を好み、恒川岩谷の門に入り、のち巖谷一六の師事。更に假名の研究に志し、晉唐の草書の筆意を交へて一家を成した。へ尾上柴舟、坂正庄、中村春堂と共に現代假名界の一代權威（奥山錦洞）。また漢籍詩文を佐藤牧山に、和歌を小出繁に學び、殊に御歌所の出行するなど歌名も高かりた。國學院大學の教鞭を執つた他、日本書道作振會、日本美術協會審査員を務めた。

著書に『高蔭いろは帖』（明治四十二年十一月十七日書道振興會）、

『皇太后宮御禁庭の野分』（書、大正二年五月十五日富田文陽堂）、

『皇太后宮御作金剛石と十一徳』（書、大正二年九月五日富田文陽堂）、

歌集『高蔭千首』（大正十一年十一月二十五日話雲閣）等。

